



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、定員30名以内ですのでご理解ください。

第29回 食虫植物展

- 日時：7月23日(木・祝)～8月10日(月・祝)
- 場所：観覧温室特別展示室
- 内容：ウツボカズラ、サラセニアなど100種展示。
- 販売：7/23の13:00からと、7/24～26

◆7/26(日)「ハエトリソウについて」講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00
(当日会場受付 13:00～)
講師：大谷博行氏
定員：先着30名
参加費：無料(別途入園料が必要)

第4回 帰化植物展

- 日時：8月7日(金)～8月16日(日)
- 場所：植物園会館1階展示室
- テーマ：「侵略的外来植物」
- 内容：帰化植物の写真、解説パネル及び切花等の展示。

◆8/9(日) 帰化植物展開連観察会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00
(当日会場受付 13:00～)
内容：「帰化植物を観察しよう」
帰化植物についての説明及び生育地での観察。
講師：京都府生物教育会 西村 元氏
定員：先着30名
参加費：無料(別途入園料が必要)

「副園長のほっこりガイド」

7月26日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!
植物園会館前集合：午後2時スタート!(30分程度)

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!(30分程度)

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

「植物園ガイド」が植物案内!

- ～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～
- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)
- * 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

- 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141で

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
- 大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
- ※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 7. 17
10号

① ニュートンのリンゴ
バラ科。アイザック・ニュートンは、リンゴが樹上から落下する様子を見て万有引力のアイデアを得たといわれ、この時のリンゴの木が「ケントの花」という栽培品種。この個体は原木が老衰で伐採される前に接ぎ木で増やされたうちのひとつ。

② ルリタマアザミ
キク科。東ヨーロッパおよび西アジアに分布。アザミのように葉にトゲがあり、瑠璃色で球形の花を咲かせることから名前が付いた。属名の「エキノプス」は、つぼみがトゲトゲしていて「ハリネズミに似ている」という意味のギリシャ語に由来。

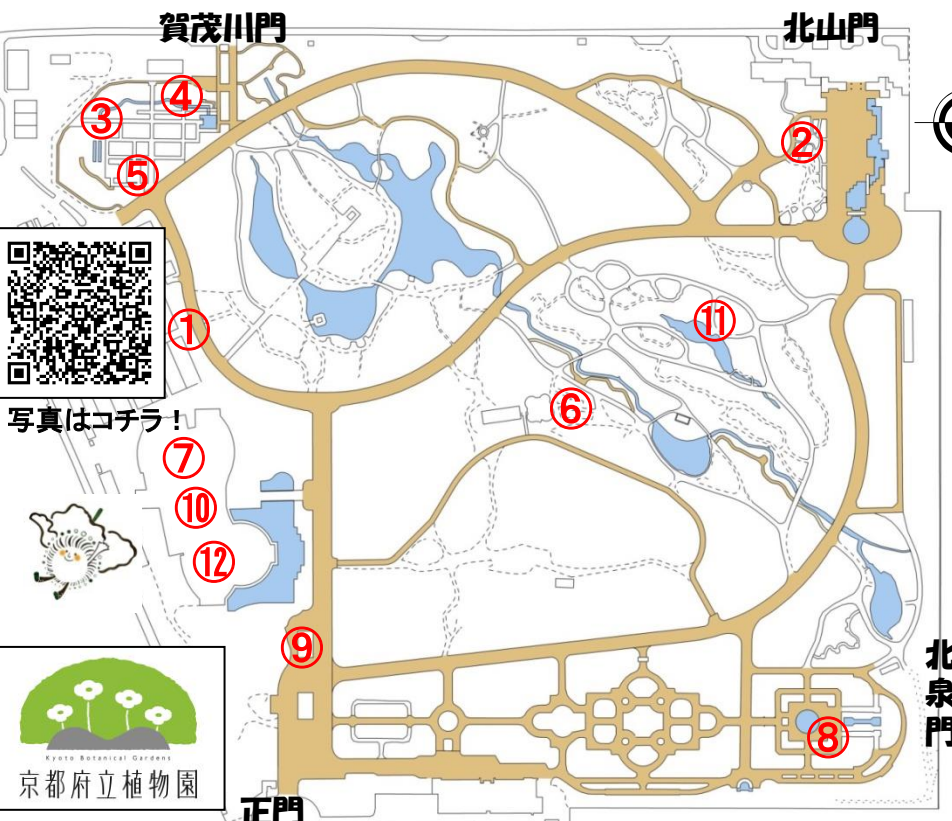
③ ハス
ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

⑫ タッカ シャントリエリ
ヤマノイモ科。東南アジア大陸部～マレー半島に自生。コウモリの翼に見える部分は苞、垂れ下がるように付くのが花、ネコのひげのような部分は花を付けなかった未発達な花茎。「Bat flower(コウモリ花)」や「Devil flower(悪魔花)」の別名も

⑪ オニユリ
ユリ科。北海道～九州、朝鮮半島、中国などに分布。鱗茎を食用にするため渡来したと考えられ、農家の庭先や道ばたなど、人間生活とかわりのある場所で多く見られる。種子は作らないが、葉の付け根に暗紫色のムカゴを作る。

⑩ スタンホペア チグリナ
ラン科。メキシコ原産。芳香があり、花粉媒介者であるシタバチ類の雄だけを誘き寄せる芳香物質を分泌する。この物質は種ごとに組成が異なっているため、誘引されるシタバチ類も種ごとに決まっており、種間の交雑を防いでいる。

⑨ ネコノヒゲ
シソ科。インドやマレーシアに自生。花から伸びた雄しべが、猫のひげのように見えることから名が付いた。現地でも同様にマレー語で「猫のひげ」に当たる「クミスクチン」と呼ばれ、古くから薬草として重宝されている。沖縄では三大薬草の一つ



写真はコチラ！



⑧ ムラサキバレンギク
キク科。北アメリカ原産。花びらがやや下向きに反って咲く姿が「紫色の馬簾(ばれん)のような菊」に似ることが名の由来。馬簾とは、江戸時代の町火消しが消火活動の目印などに用いていた纏(まとい)にのれんのように付いている部分。

⑦ キソウテンガイ
ウエルウィッチア科。アフリカ南部のナミブ砂漠原産。終生伸び続ける1対だけの昆布のような2枚の葉に、地下水を求めて砂漠の地下奥深くまで伸びる長い根。自生地では推定樹齢2千年の長寿な株も。まさに和名「奇想天外」たるゆえん。

④ チュウキンレン
バショウ科。中国やベトナムなどに分布。漢字では「地湧金蓮」と書き、外観が地面から金色のハスの花が湧き出したように見えることが名前の由来。また、見た目がバナナにも似ていることから、英名は「チャイニーズ・イエロー・バナナ」。

⑤ ヒオウギ
アヤメ科。本州・四国・九州の山野の草地や海岸に自生。扇型に開いた葉が、宮廷人の持つ檜扇(ひおうぎ)に似ていることが和名の由来。京都では、古くからこの花が悪霊退散に用いられたことから、祇園祭には「祭花」として欠かせない。

⑥ ムクゲ
アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムゲンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間中咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。